

# フナムシ



△しているフナムシ  
水槽の中で集団を維持  
(水槽番号2221)

# 水族館へ行こう!

## 京都大学白浜水族館

22

# 大和茂之

海岸や漁港を歩いたとき、フナムシの群れを見た人は多いだろう。その姿からゴキブリをイメージするのか、白浜水族館のフナムシの水槽前で

は、ちょっとした驚きの反応が見られる。「フナムシみたいなものを展示して!」と叫ぶことらしい。さらに、この水槽だけは、水を張ら

ずに海水を滴らしている程度なので、他の水槽と

# 海から陸への進化

ムシは7対の歩脚がある。雌のフナムシは腹側に卵を抱えており、ふ化した後もしばらく子どもを抱えて保護する。親のおなかで生活史の初期を過ごすため、フランクトン幼生は出さない。

景観が違っている。フナムシは陸上をはい回るが、昆虫類ではなくエビやカニの仲間の甲殻類に属する。昆虫の足が3対あるのに対し、フナ

このようなフナムシの生活史は、飼育することにも大きく影響してくる。白浜水族館のフナムシは、1993年に展示を始めて以来、一度も補

命はせいぜい数年だろうから、何代も入れ替わりながら、水槽の中で集団を維持してきたことになり。フランクトン幼生を出すものではない。こうはいかない。幼生が海水の循環とともに流されてしまい、水槽内で一生を完結させることが非常に難しい。

(京都大学助教)

やドカリにも陸にすむものがある。これらの多くは幼生を放出するため海に降りる必要がある。完全に海との縁を切るには、サワガニのように大きな卵を産んで、幼生の時期を省略しなければならない。

フナムシは、海から陸への進化の過程にある生物だ。フナムシの近縁の種類には森林の林床にすむものもある。少し離れた親類には、ダンゴムシやワラジムシもいる。

このような海から陸への進出は、甲殻類では何度も起こっている。カニ